



ほけんだより 7月号

令和5年7月1日 青梅梨の木保育園



発熱で体調を崩すお子さんが続き、ご心配をおかけしています。

コロナ禍の3年間は、新型コロナウイルス感染症以外の感染症の流行がなかったため、免疫のあるお子さんが少ないことが原因と考えられます。ヘルパンギーナと診断を受けたお子さんが多いですが、他にもRSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症、新型コロナウイルス感染症、手足口病等の診断を受けているお子さんもいます。全国的にも同様の感染症の流行が見られているようです。

これから夏の暑さが厳しくなって来ます。子どもたちの体調に注意しながら保育を進めていきます。生活リズムを整えて、体調管理に努めましょう。

あせもを防ぎましょう

あせもは、おでこやひじ、首の周りなど、汗がたまりやすく、皮膚がこすれる場所にできます。アトピー性皮膚炎のある子は、症状が悪化することもあるので注意しましょう。

あせもを作らない 3つのポイント

- ① 薄着が基本
- ② 吸湿性のよい木綿の肌着を着る
- ③ 汗をかいたら着替える、タオルでふく、シャワーで流すなどして、常に肌を清潔に



水いぼ" Q & A

Q. 水いぼって何？

A. 伝染性軟属腫ウイルスが原因でできる粟粒大のいぼで、おなかやひじ、わきの下などにできて広がります。

Q. うつるの？

A. いぼがつぶれて中の液が付くとうつります。体の接触、タオルなどの共有でうつりやすいので注意が必要です。

Q. 登園やプールは？

A. 登園の制限はありません。プールもOKですが、傷がじゅくじゅくしているときはガーゼで覆い、プールも控えたほうがよいでしょう。

Q. どうやって治すの？

A. そのままでも半年から一年半ほどで治ります。アトピー性皮膚炎の子や、かゆくてかきこわしてしまつような場合は医師に相談のうえ、治療を。

とびひに注意しましょう

とびひとは、あせも・湿疹・虫刺され・すり傷等をかきむしって、傷が出来たところに細菌が入り、感染する皮膚病です。膿をもった水泡様の湿疹が出来ます。強いかゆみを伴います。かいた手で体の他の部分を触るとそこにも湿疹が広がってしまいます。感染力が強く、接触すると他の人にもうつります。

<予防> あせも・湿疹・虫刺され等は、早めに治療しましょう。

- ・毎日入浴し、体の清潔に心がけましょう。入浴後は全身をチェックしましょう。
- ・爪を短く切り、石鹸をつけていねいに手を洗いましょう。
- ・汚れた手で湿疹や虫刺されをかきむしらないようにしましょう。

お願い

蒸し暑い日が続くととびひにかかるお子さんが増えて来ます。とびひにかかってしまつても、すぐに治療をすると早めに軽快します。疑いのあるときは、早めに受診をしてください。とびひは感染力が強いです。顔や頭などガーゼで覆えない場所や広範囲に出来てしまったときは、集団生活を考えてお休みをお願いする場合があります。ご理解ご協力をお願いいたします。

